

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

OAP彫刻の小径2021-2022

林武史+松井紫朗

doodling - ちょうこくかのらくがき

2人の彫刻家、松井紫朗と林武史が、空間と時間に「ラクガキ」をするように自由な発想で対話を重ねることで生み出された作品たち。それらを〈OAP彫刻の小径〉に沿って展開することで、小径の背景を流れる大川、そして、水都大阪の風土、歴史と呼応するように、水にまつわる様々な現象や行為を想起させ、さらには拡張する造形の世界が登場します。



doo·dlin / du:dlɪŋ (BrE) (AmE doo·'dau / du:daed) noun [countable]
 a small object whose name you have forgotten or do not know
doo·dlin / raku-gaki / **verbal noun [seriously]**
 to stick, pool, flow, float, stack objects without any particular purpose,
 especially when sculptors handle materials
doo·chikku / du:chiki noun [uncountable] (AmE) informal

野外彫刻は私たちの日常生活とつながった場所にあります。その魅力のひとつとして、私たちが普段見すごしているような何かに気づかせてくれることが挙げられます。今回のテーマにある「ラクガキ」は、公園の砂場で子どもたちが遊んだ形跡のように、特定の意味に回収されないような原初的で多義的な造形物を意味しています。土や水や植物など、彫刻の専門家だけでなく扱うことのできる素材も用いられますし、制作もシンプルな行為であることが意識されています。それは一般に考えられている彫刻からは少し離れたものと思われるかもしれませんが、しかし、ここには、素材と環境と鑑賞者がかかわることで導かれる、彫刻と呼ぶより他のない空間が生まれてくることになります。また、これらの彫刻は、抽象的な姿をしているとしても、具体的な何かに見立てることもできるはずで、この意味で、「ラクガキ」とは、日常のなかにあるモノや所作を彫刻に変換するための作法といえるかもしれません。こうして生まれる形や空間は、鑑賞者に発見と親しみをもたらすことになります。天候や動植物による周囲の影響を受け容れ、また、行き来する人々の視線や身体、想像力に働きかけるこれらの彫刻を通じて、日常のなかに埋没して見えなくなった、この場所がもっている面白さを再確認していただければと思います。

■OAP彫刻の小径について

OAP彫刻の小径は、天神祭でも知られる大川を臨む水辺のプロムナード沿いに位置します。一年半毎にテーマを設けて展示替えを行い、親しみやすくをモットーに国内外で活躍する気鋭作家の作品を紹介する野外彫刻展を開催しています。

【展覧会概要】 展覧会タイトル：**OAP彫刻の小径2021-2022**
林武史+松井紫朗 doodling - ちょうこくかのらくがき
 OAP Sculpture Path 2021-2022: **Takeshi Hayashi + Shiro Matsui doodling**

会 期：**2021年 5月11日 [火] - 2022年 10月末**

会 場：**OAP彫刻の小径 (OAP公開緑地内、大川沿いのプロムナード)**

協 力：**藤井匡 (東京造形大学教授)**

主催：**アートコートギャラリー (株式会社八木アートマネジメント)** 協賛：**三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社**

【お問い合わせ】 アートコートギャラリー [担当：清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

OAP彫刻の小径2021-2022

林武史+松井紫朗

doodling - ちょうこくかのらくがき



◆ 林武史 Takeshi Hayashi

林武史は様々な石を素材に抽象的な造形を制作し、それらを構成することによって、空間そのもの、あるいは「風景」とも呼べる表現を生み出す彫刻家です。眼前に広がる水田や遠くの山並みを想起させる石彫の集合体、積層する石の彫刻を鑑賞者が踏みしめて歩く作品、展示空間全体に石柱が林立し、その空隙までもが心地よい緊張感で満たされたインスタレーションなど、場所や身体との関係性、あるいは自身の中に蓄えられた体験やイメージを手がかりに、石が持つ本来の「質」との対話を重ねることで、周囲の環境に溶け込みながらも美しくしなやかな存在感を放つ作品を屋内・屋外で数多く展示してきました。また、林は大理石による4畳半の作品の上で茶会を催したり、石以外に陶や瓦、壁土、和紙を素材に用いるなど、日本固有の風土や土地の記憶に着想を得た表現も手がけています。

1956 岐阜県生まれ
1980 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
1982 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
1998-99 文部省在外研究員としてパリに滞在

■ 主な個展 *2000年以降

2020 「林武史 石の記憶、泥の声」美濃加茂市民ミュージアム、岐阜
2018 「凸凹な石」東京画廊+BTAP、東京
2015 「15の蟬の声」柳ヶ瀬画廊、岐阜
2014 「石の言葉」東京画廊+BTAP、東京
「庭の仕事」ギャラリーヒラワタ、神奈川
2011 「林武史 石の舞・土の宴」岐阜県美術館
「HaKu-U」Cone Exchange Gallery、イギリス
2008 「大地の記憶」キタニ、高山、岐阜
2007 「雨の記憶」ギャラリーヒラワタ、神奈川
2006 「林武史展 開館三周年記念 Part I」伊勢現代美術館、三重
「石間」東京画廊+BTAP、東京
2001 「水田」ヨコハマポートサイドギャラリー、神奈川

■ 主なグループ展 *1999年以降

2021 「歴史的建造物と現代美術 時のきざし」浦和くらしの博物館民家園、埼玉
2019 「時間/彫刻 時をかけるかたち」東京藝術大学大学美術館陳列館
2018 「ウエザーレポート 風景からのアースワーク、そしてネオ・コスモグラフィア」
栃木県立美術館
2015 「現代京都藝苑2015—素材と知覚—」虚白院、京都
2013 「物質と彫刻—近代のアポリアと形見なるもの—」東京藝術大学大学美術館陳列館
2012 「第6回円空大賞展 大地との共鳴—創造の原風景」岐阜県美術館〈円空賞〉
2011 「彫刻の時間—継承と展開」東京藝術大学大学美術館
2010 「OAP 彫刻の小径 2010: UN - SYNTAX」OAP公開緑地内、大阪
「STONE project」Yorkshire Sculpture Park, Pier Centre Orkney Cass
Sculpture Foundation, Cass Sculpture Foundation、イギリス
2009 「MILESTONE」Edinburgh College of Art、イギリス
2008 「表現者たち…ゆらぐ境界を越えて」うらわ美術館、埼玉
「彫刻・林間学校」メルシャン軽井沢美術館、長野
2007 「第22回現代日本彫刻展」宇部市野外彫刻美術館、山口〈毎日新聞社賞〉
2004 「表現から表現へ小清水漸+林武史」ヨコハマポートサイドギャラリー、神奈川
2003 「表象都市 metamorphosis 広島」旧日本銀行広島支店、広島
2002-03 「みちのくアートフェスティバル2002 高山登+林武史+国営みちのく杜の湖畔公園、宮城
2001 「求心力/遠心力 うらわと現代の美術」うらわ美術館、埼玉
2000 「第3回光州ビエンナーレ」光州市立美術館、韓国
1999-00 「30周年記念展—森に生きるかたち」箱根彫刻の森美術館、神奈川

■ パブリックコレクション

伊勢現代美術館、三重/うらわ美術館、埼玉/岐阜県美術館/ときわミュージアム、山口/
豊田市美術館、愛知/岐阜大学/白川町、岐阜/飛騨市、岐阜/福井県立鯖江高等学校



《光の沼》

黒御影石、赤御影石、水 | φ7m(インスタレーションサイズ) | 2020年
撮影:山本紉



《白い山》花崗岩 | 50x70x1020cm | 2015年

白川町蔵 撮影:山本紉



《青い園》緑釉瓦、壁土 | サイズ可変 | 2018年 撮影:山本紉

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

OAP彫刻の小径2021-2022

林武史+松井紫朗

doodling - ちょうこくかのらくがき



◆ 松井紫朗 Shiro Matsui

人間の知覚と空間／時間との関係に深い関心を寄せる松井紫朗は、木、金属、シリコンラバーなど、幅広い素材を用いて、新鮮で意外性に満ちた時空概念を提示してきました。先端がじょうごのように開いた銅管を方々へ伸ばし、壁や距離によって隔てられた空間に声を通わせたり、建築と一体化した巨大なバルーンを膨らませて観客に空間の「内」と「外」を同時に体験させるなど、多種多様な形体、スケールで展開される表現は、観客の視覚的・身体的な経験を通して、内／外、こちら側／向こう側、現在／過去といった領域をゆるやかにつなぎ合わせ、切り離し、反転させることで、私たちが普段当たり前と思っている物事の認識のあり方に揺らぎや葛藤を引き起こし、新たな次元へと押し広げていきます。近年は宇宙との関係に対象を広げ、JAXAと協働のもと、宇宙飛行士によってガラスの密閉容器に取り込まれた真空の宇宙空間を手取ることで、地球上で「宇宙」をよりフィジカルに経験するためのワークショップを世界各地で行うなど、分野横断的な試みにも取り組んでいます。

1960 奈良県生まれ
1984 京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業
1986 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

■ 主な個展 *2000年以降

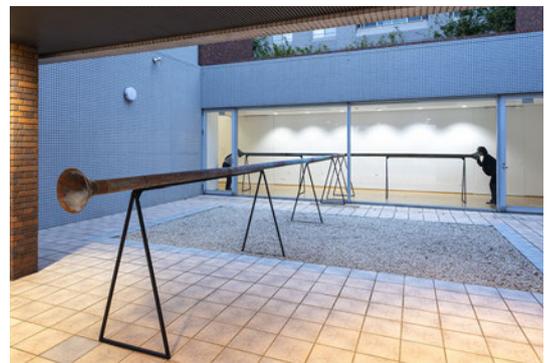
2019 「Far Too Close」アートコートギャラリー、大阪
2018 「美術館庭園アートプロジェクト 松井紫朗のセンス・オブ・ワンダー」
姫路市立美術館 庭園、兵庫
2016 「手に取る宇宙—松井紫朗との関係」札幌宮の森美術館、北海道 [13]
2013 「Forwards Backwards」アートコートギャラリー、大阪
2011 「亀がアキレスに言ったこと—新しい世界の測定法」豊田市美術館、愛知
2010 「Hundreds of Gardens」アートコートギャラリー、大阪
「松井紫朗 Aqua-Lung Channel」白土舎、名古屋 [08, '07, '04, '01]
2006 「Shiro Matsui Jonah's Green」ハウス・エスターズ、クレフェルト美術館、クレフェルト、ドイツ
2004 「The Outside's Inside」ハイデルベルガー・クンストフェライン、ハイデルベルク、ドイツ
2003 「Glossy Dark」信濃橋画廊、大阪
2002 「Days Daze」CASO、大阪
「Days Daze Yokohama」ヨコハマポートサイドギャラリー、横浜
2000 「dance, drink...」インターヴァル、ヴィッテン、ドイツ

■ 主なグループ展

2020 「京都の美術 250年の夢」京都市京セラ美術館 本館、京都
「ACG Window Gallery: Yasuaki Onishi x Shiro Matsui」アートコートギャラリー、大阪
2019 「集めた!日本の前衛—山村徳太郎の眼 山村コレクション展」兵庫県立美術館
2018 「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」国立国際美術館、大阪
「水と土の芸術祭 2018」万代島多目的広場、新潟
2017 「札幌国際芸術祭 2017」モエレ沼公園、札幌、北海道
2016 「千崎千恵夫、松井紫朗 二人展」東京画廊+BTAP、東京
2015 「現代京都藝苑2015—素材と知覚—」虚白院、京都
2012 「田中敦子—アート・オブ・コネクティング」東京都現代美術館
2010 「OAP彫刻の小径2010: UN - SYNTAX」OAP公開緑地内、大阪
「Trouble in Paradise/生存のエシックス」京都国立近代美術館
「あいちトリエンナーレ2010」愛知芸術文化センター
2007 「第22回現代日本彫刻展」宇部市野外科彫刻美術館、山口 [01]
〈宇部市野外科彫刻美術館賞〉
2003 「表象都市 metamorphosis 広島」旧日本銀行広島支店、広島
2002 「SYDNEY FESTIVAL 2002」The Strand・the QVB、オーストラリア
2001 「美術館を読み解く」東京国立博物館 表慶館
2000 「Trading Views」ザールブリュッケン市立美術館/
シュテューティッシュ・ギャラリー、エアランゲン 他、ドイツ
1998 「インサイド / アウトサイド—日本現代彫刻の8人—」新潟県立近代美術館
1997 「芸術祭典京 造形部門『思い出のあした』」京都市美術館
1990 「80年代の日本美術展」フランクフルト・クンストフェライン/ボン・クンストフェライン、ドイツ/
ウィーン近代美術館/プレゲンツ音楽祭、オーストリア
1985 「アート・ナウ '85」兵庫県立近代美術館

■ パブリックコレクション

宇都宮美術館/京都市美術館/豊田市美術館/新潟県立近代美術館/兵庫県立美術館(山村コレクション)/山口県立美術館/京都市立芸術大学/文化庁/
京都府/宇部市/米子市/ザールブリュッケン市/ダイムラークライスラー



《Capital T》銅 | サイズ可変 | 2019年 撮影:福永一夫

《ナルシスの滝》
鉄、コンクリート、ポンプ | 300 x 200 x 300 cm | 2007年
宇部市野外科彫刻美術館賞 撮影:山本糾《君の天井は僕の床》リップストップナイロン
800x1400x1400cm | 2013年

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com